

目次

口絵

序

凡例

目次

はじめに―小平の近世―……………1

序 章 村ができるまで―武蔵野がひらかれる―

第一節 南北に伸びる道と武蔵野―古代・中世―……………11

1 都と国府を結ぶ道……………11

2 鎌倉と各地を結ぶ道……………17

武蔵野のイメージ 最も古い人の痕跡 武蔵国の成立 東山道武蔵路 八小遺跡について
武士団の活動と鎌倉幕府の成立 鎌倉街道上道 鎌倉街道上道と伝承

第二節 変化する武蔵野と丘陵の村―戦国時代―近世前期―……………21

1 変化の起点としての戦国時代……………21

幕府滅亡後の鎌倉 享徳の乱と交通路の変化 北条領国下の交通路 武蔵野における集落の成立

2 徳川家康の関東入国と首都江戸の建設……………26

徳川家康の関東入国 青梅街道と石灰輸送 五日市街道と薪炭輸送 玉川上水の開削

3 丘陵の村から……………31

村山村から岸村へ 岸村のすがた 岸村の土豪 開発に乗り出す土豪

第一章 村ができる―一七〇一―一八世紀の村の開発と支配―

第一節 ひらかれる小川村―一七世紀の新田開発―……………39

1 一七世紀の武蔵野開発のなかで……………39

武蔵野の開発状況 小川九郎兵衛の開発願い

2 入村してくる者たち……………43

「入村請書」という文書 入村者はどこから来たか 入村者の素性

3 開発のようす……………49

延宝二年頃の小川村地割図 小川分水の開削 土地開発の進展

4 開発人小川家と入村者の関係……………55

寛文九年検地と小川村の成立 小川家の地代銭取得特権 小川家による百姓助成

5 寛文・延宝年間の村方騒動……………60

第一次騒動（寛文二年） 第二次騒動（延宝四・五年） 第三次騒動（延宝七・八年）

6 馬をあつかう人びと……………69

小川村の馬 小川村を訪れた馬喰 小川村の口入人と馬喰・馬医

7 村のすがた……………75

一七世紀末～一八世紀前半の小川村 小川村を構成する組 農業生産の状況 土地所有のあり方

コラム 近世の百姓に苗字はあったのか?……………82

第二節 新たに生まれる村々―享保期の新田開発―……………84

1 將軍吉宗・大岡忠相と新田開発……………84

(1) 將軍吉宗と享保改革……………84

吉宗の將軍就任

(2) 享保改革と武蔵野開発……………87

幕府の新田開発 大岡忠相と武蔵野開発 小川村の「見取場」検地

(3) 大岡忠相の元文「新田場」検地……………93

元文の大岡検地 廻り田新田の元文検地 村々の検地帳 検地後の展開

	(4)	川崎定孝の桜植樹	99
		川崎定孝の桜植樹 桜植樹の理由 小平市域史料の桜―將軍吉宗・大岡忠相・川崎定孝―	
	2	小川新田	114
	(1)	開発までの経緯	114
		小川弥市の開発願い もう一つの開発願い 開発地の割り渡し	
	(2)	二つの区域	117
		「出百姓分」と「持添分」「持添分」の開発 「出百姓分」の開発 「出百姓分」の構成	
	(3)	開発期のくらし	124
		村役人制度 年貢収納状況 土地の性格 新田名主家の成立 村のすがた	
	3	鈴木新田	130
	(1)	貫井村と新田開発	130
		近世の鈴木新田 貫井村の開発願い 野中善左衛門との協力 「貫井村願場」の開発許可 百姓への開発場割り渡し	
	(2)	「野中新田」の頃	138
		利左衛門の開発場取り上げ 利左衛門の入村準備 名主源右衛門の「野中新田」	
	(3)	入村百姓のすがた	141
		享保一一年以降の入村 入村百姓の出身地	
	(4)	鈴木新田の「独立」と野中新田村役人との出入	144

	鈴木新田の「独立」と年貢割付 「野中新田」村役人を訴える	
(5)	元文検地の実施	148
	鈴木新田の地目と面積 鈴木新田の土地所持状況	
(6)	鈴木新田の諸様相	151
	村のすがた 川崎手代としての鈴木利左衛門 大長久保の田場	
4	野中新田	154
(1)	上谷保村大堅と百姓の新田開発計画	154
	近世の野中新田 上谷保村の大堅 新田発起と「矢沢新田」江戸町人との共同開発計画	
(2)	野中善左衛門の出資と「野中新田」の成立	159
	野中善左衛門への出資依頼 開発場の割り渡し 開発場の売却と上谷保村百姓の撤退 入村百姓の出身地 「野中新田」となる	
(3)	四つの「村」へー与右衛門組・善左衛門組・六左衛門組・鈴木新田ー	163
(4)	元文検地の実施	164
	野中新田の地目と面積 野中新田の土地所持状況	
(5)	野中新田の諸様相	167
	善左衛門の名主役召し上げと帰役 村のすがた 野中新田の「組」と「村」 善左衛門組の「堀野中」 野中新田と江戸 大堅和尚の遺偈	
5	大沼田新田	173

	(1)	新田開発と當麻家の土地集積……………	173
		大沼田新田の村域 大岱村の當麻家と新田開発 近隣村々からの開発場買い集め 二人の新田開発人……………	
	(2)	百姓のすがた……………	176
		新田場の百姓 入村百姓の出身地……………	
	(3)	元文検地の実施……………	180
		大沼田新田の地目と面積 大沼田新田の土地所持状況……………	
	(4)	村の地割と二種類の新田場……………	182
		村の地割と地割絵図 二種類の新田場……………	
	(5)	名主役出入から村役人の固定まで……………	185
		新田百姓の名主役設置要求 「百姓のために」働く伝兵衛 伝兵衛、名主代役となる 相名主の弥左衛門と伝兵衛―開発人両家― 弥十郎の入村と村役人の固定化……………	
	(6)	大沼田新田の諸様相……………	189
		村のすがた 弥左衛門家と伝兵衛家 伝兵衛と久米川新田 新田の名称……………	
	6	廻り田新田……………	196
	(1)	開発がはじまるまえ……………	196
		廻り田村 開発反対運動 二分される廻り田村……………	
	(2)	斉藤太郎兵衛・忠兵衛と山田庄兵衛……………	198

(3)	元文検地の実施……………	203
	斉藤太郎兵衛と代官岩手信猶 開発地の売却 山田庄兵衛の登場 年貢不納問題	

(4)	土地の割り付け 廻り田新田の地割の特徴 地目の特徴	206
	本村からの独立と開発由緒の成立……………	

	新田への移住 廻り田新田の出発 集落の形成 宝暦年間の土地所持状況 本村からの独立	
	村の歴史と序列……………	

(5)	ひらかれた廻り田新田のすがた……………	212
	最初の村明細帳 廻り田新田の生業と風景……………	

7	新田開発と寺社……………	215
---	--------------	-----

(1)	小平市域における寺社の概観……………	215
	地域の寺院や神社をみるにあたって 寺院の役割 神社の役割 武蔵野新田と寺社の概況……………	

(2)	小川村と寺社の整備……………	220
	小川村の景観と寺社 寺院の成立と入村請書 二つの菩提寺 小川家と両寺院 神明宮と山王	

	社 開発と僧侶 小川新田開発と一本榎 宮崎家の動向と社号 期待される僧侶像 小川寺の	
	火災……………	

(3)	大沼田新田の成立と寺社……………	229
-----	------------------	-----

	泉蔵院の成立 引寺完遂までの経緯―引寺反対の動向― 引寺完遂の裁許 泉蔵院留守居 泉	
	蔵院の由緒と引寺経緯の整理 泉蔵院の引寺と周辺村 稻荷社をめぐる史料伝来 泉蔵院・稻	

荷社の普請とその管理

(4) 野中新田と寺社をめぐる様相……………238

野中新田の成立と寺院 円成院の整備と野中新田の組分け 円成院の引寺と子院 子院・庵の存在 円成院の二つの特徴 四つの組と寺院 延命寺の初見と整備 宝林院と鳳林院 鈴木新

田海岸寺の引寺 牛込済松寺と引寺 引寺の意味

コラム 新田開発の典型的事例として……………252

第三節 支配する人たち―小平市域の支配の概要―……………253

1 幕府直轄領と小平市域の代官支配……………253

幕府直轄領とは 代官とは 地方と公事方 代官所の役人

2 小川村の開発と八王子十八代官……………255

八王子十八代官 今井九右衛門忠昌 中川八郎左衛門

3 綱吉期以降の小川村支配代官……………259

近山与左衛門正友 勘定所系代官の登場 小川村支配代官と幕府官僚制

4 享保改革と大岡支配役人……………261

大岡忠相の地方御用拜命 岩手藤左衛門信猶 野村時右衛門・小林平六の救恤策と増徴 荻原源

八郎乗秀 上坂安左衛門政形

5 川崎平右衛門と伊奈半左衛門……………267

	川崎平右衛門定孝の登場	川崎の救恤策	伊奈氏の支配の開始	江戸廻り代官支配の開始			
6	近世後期の代官支配―伊奈氏の改易と馬喰町御用屋敷詰代官体制の確立―	寛政改革期の代官政策	伊奈半左衛門の改易と関東郡代の新設	伊奈友之助忠富	野田文蔵元清		
7	文政改革と葦山代官支配の開始	文化文政期の関東代官	馬喰町御用屋敷詰代官支配の展開	江戸廻り代官早川八郎左衛門正紀			
	その後の江戸廻り代官支配	葦山代官支配の開始	開国期の代官支配	開国期の関東代官	葦山代官支配	江川太郎左衛門英敏	江戸廻り代官
9	幕末維新期の代官支配―関東幕領の再編と明治維新―	熊本藩預所をめぐる代官と地域	最幕末期の小平市域の支配	明治維新と代官支配の終焉			
	コラム	村人に慕われる代官たち	第四節	鷹場にくらす―尾張家鷹場の規制と負担―			
1	江戸周辺の尾張家鷹場	將軍家鷹場と御三家鷹場	尾張家鷹場	尾張家の鷹場役人			
2	近世前期の鷹場預り	「鷹場預り」の起源	鷹場預りの増員	鷹場預りの職務	生類憐みの令と鷹場の廃止		
3	享保改革の鷹場復活						
299							
296							
291							
291							
289							
284							
281							
275							
273							

将軍家鷹場の復活 尾張家鷹場の復活 「鷹場預り案内」の任命 鷹場預り案内の交代 尾張家鷹場の調査

4 鷹場法度と規制・負担……………306

鷹場法度 さまざまな規制と負担

5 近世後期の尾張家鷹場……………314

鷹場見廻 古役五家体制の崩壊 尾張家鷹場の天保改革 古役特権の否定

6 鷹場村々と尾張家……………318

鷹場村々と尾張家 尾張家鷹場の廃止

第二章 村がなりたつ——一八〇一九世紀の村——

第一節 村をまとめる——村役人と村政——……………329

1 村と支配……………329

村請制と新田村の村役人 法令の伝達 高札 村の掟 村の会計

2 村運営と村役人の交替……………339

村役人の仕事と心得 村役人給 大沼田新田の村運営——名主と年寄—— 大沼田新田の組頭設置

村役人の決定と交替 小川村組頭の交替 鈴木新田名主の交替 善左衛門組の組頭と組替え

村の五人組

3 さまざまな村役人のすがた…………… 350

「上鈴木」の組頭 問題になった組頭 野中新田名主善左衛門 名主善左衛門と「堀端」の百姓
野中新田与右衛門組の元名主 与右衛門組の名称変更問題 新田村の年寄
コラム 親孝行と子育てのための組頭退役…………… 358

第二節 年貢はどのように納められるのか—さまざまな負担—…………… 360

1 百姓と年貢…………… 360

年貢を納めるということ 百姓が負担する貢租の種類

2 村を単位に課され納められる年貢…………… 362

村請制と年貢 年貢額の決定方法 貢租の内訳と推移

3 年貢賦課・収納に果たす村の役割…………… 369

小川村における年貢賦課と収納 夏・秋の場合 冬の場合 百姓の自治と助け合いを育む村請制
コラム 本百姓・脇百姓・水呑百姓、そして「上水呑」…………… 378

第三節 村のくらしを支える—困窮者救済のしくみと変化—…………… 380

1 御救いの後退…………… 380

御救いとは何か 小川村へのさまざまな助成 享保期の新田開発と助成 助成方法の変化 御救

第五節 人は何を信じていたのか―寺社・宗教―

1 小平地域の信仰空間……………433

信仰心を考えるにあたって 青梅街道沿いに展開する寺社 青梅街道と寛永寺 寺院の境内地を
考える 神社の境内地を考える 屋敷に残る神々 廻り田新田と寺社

2 伝来する信仰関係資料……………443

重なりあう信仰の様相 庚申信仰をめぐる動物へのまなざし 神社を建てること―棟札情報
を読む― 小平市域郊外の寺社への信仰

3 ささまざまな宗教者と地域……………449

民間に生きる宗教者と宗教的な「知」 他地域から訪れる宗教者 宮崎家と神葬祭 神主の立場
と復古意識 熊野宮宮崎家の活動

4 宗教をめぐる人びとの関心……………454

伝兵衛・弥左衛門の宗教的活動 松尾講への加入 廻り田新田における宗教的「知」 信仰心の
ありよう

第六節 玉川上水と生きる―玉川上水・分水と村のくらし―……………461

1 玉川上水の開削と管理組織……………461

江戸の発展と上水道の整備 玉川上水開削のようす 管理組織

2	玉川上水の管理と村の負担	466
	持場村への編成 持場村の負担 土手の草刈り 通行する役人への対応 植樹と橋普請	
3	水利利用のあり方と変化	472
	開発と分水 水車を仕掛ける 玉川上水通船にいたるまで 通船の実現と廃止 分水口の改正へ	
4	村と分水	480
	小川村の小川分水 小川分水の分水口 水料金の負担 小川村と野火止水 小川新田の分水	
	玉川上水縁の水汲み場 廻り田新田を流れる分水 廻り田新田の分水利用 鈴木新田を流れる分水 悪水堀と田場 大沼田新田の三つの分水 大沼田新田上分飲み水の埋樋 分水口を利用する村と普請 分水口普請のようす	

第七節 権利をめぐる争論と訴訟

1	近世の争論と訴訟	497
	村の出入 扱人の存在 済口証文	
2	水をめぐる争論—安永期の采女堀争論—	500
	争論が起こる前 安永期の采女堀争論 争論一旦解決 再論となる 再び裁許へ 争論に際しての村入用 水の確保と村の争論	
3	村境をめぐる争論—文化期の村境争論—	506
	争論が起こる前 争論の経過 双方の主張 吟味、奉行所扱いとなる 内済へ 争論の結果 廻	

4 二つに分かれた大沼田新田……………514
 り田新田の不満 小川新田と廻り田新田 新田村の文書と争論

大沼田新田の出入 天保一二年の地所出入 江戸出府と滞在 長引く吟味 訴訟慣れする百姓
地所出入の内済 縁談出入 名主弥左衛門の主張 出入の終結 出入と村役人

コラム 郷宿と村……………525

第八節 村に住む武士―村からみた士と農……………527

1 近世の村から武士をみる視点……………527

「士農工商」と「兵農分離」 小平地域の兵農分離と村の武士

2 新田開発と武家抱屋敷……………528

抱屋敷とは 抱屋敷の持ち主たち 小川村の開発と抱屋敷 地所を売り渡す百姓 屋敷主と屋守
抱屋敷の機能 抱屋敷の近親間での売買 手放されてゆく抱屋敷 一七世紀の新田開発と抱屋敷

3 支配を支える人びと……………540

「御用」を請け苗字帯刀する村人たち 尾張家鷹場の維持管理―鷹場預り案内役―案内役の身
分と格式 「御用」を請け負う人びと

4 小平地域の千人同心と幕末の戦争……………550

在村同心の広がり 當麻勇藏の日光勤番と武芸稽古 海防と村が求める同心株 幕末の戦争と村
の千人同心

コラム 千人同心田村金右衛門の明細短冊……………

第九節 伝えられる文書―村の文書作成・保管・引継―

1 文書と支配……………

近世を知るために 文書による支配 支配役所から村への通達 村から役所への提出①―村明細

帳― 村から役所への提出②―宗門人別帳―

2 文書の作成と利用……………

文書を作成する人びと 村の記録 文書の利用 文書の管理と引継

3 新田開発と文書の作成……………

新田開発の願書と割渡証文 開発関係文書の「委託」 土地の移動と文書の移動 入村者の記録

4 村の文書と印……………

百姓の捺印 小川村の惣百姓印 印の形態と変化 印に刻まれた実名 印の相続 爪印 捺印を

めぐる争い 村の印 近世の文書がもたらしたもの

第三章 村が変わる―一九世紀、村の幕末維新―

第一節 広がる格差と村の対応―近世後期の村と経済―

1 生産と生活の高まり……………

安定化する村のなかで 金肥の導入と商品生産 農間渡世の展開 百姓の階層分化と村

2 豪農の登場と百姓……………599

「有徳の百姓」とは何者か 豪農経営の推移①―當麻伝兵衛家の場合― 豪農経営の推移②―當

麻弥左衛門家の場合― 小川家の御用商人的活動

3 地域の成長と江戸……………607

青物販売の変化 問屋への対抗 粉の直接販売を求めて①―文政一年の争論― 粉の直接販売

を求めて②―安政三年の争論と嘆願― 水車稼人仲間の結成

4 広がる格差への対応……………615

小川村における階層分化 天保飢饉における困窮者救済 糖の確保をめぐって

第二節 人びとは何を学んだか―近世後期の教育環境―……………622

1 小平市域の手習塾……………622

手習塾の所在確認方法 多様な師匠 専門性と多様性 入門園の広がり

2 地域に根ざした往来物……………633

学習課程 地域の地理を学ぶ 文書の書き方を学ぶ 江戸の地理を学ぶ

3 女子の学習……………638

女子の就学 女子の学習課程 女子学習のテキストの普及

4 村役人の資質……………644

村請制と村役人の資質 村役人の資質形成

第三節 人びとのたしなみ―近世後期の文化活動―

1 小平の俳諧文化

小平地域の俳人 小平文化圏の確立へ 広域文化圏との結節

2 庶民の旅

小平と旅 庶民の旅を支えた社会基盤 覚悟の旅路 旅をする人びと 旅の手引き 旅先での体験 旅の記録

3 小平地域の医学

小平地域の医師 小川東礪と喜連川茂氏の診療 医学修行 村役人と医学 医学の普及と限界
コラム 小平地域の蔵書

第四節 桜を育てる―玉川上水堤桜並木をめぐる人びと―

1 名所「金橋桜花」の誕生

玉川上水堤桜並木の呼称 名所になるまで 玉川上水堤桜並木の特徴 出版文化と『武野八景』

2 創られる名所「金橋桜花」

イメージとして共有される「金橋桜花」 富士と玉川上水堤桜並木 柏屋勘兵衛

3 地域にとつての玉川上水堤桜

地域住民にとつての玉川上水 桜植樹後の玉川上水堤 上水堤芝野の専有権と年貢負担 花見の
季節の騒動

4 桜樹の補植事業……………695

桜樹の枯木化 地域住民による植樹 地域住民による管理

5 二つの建碑事業……………698

文化七年の建碑事業 嘉永四年の建碑事業

コラム 「金橋桜花」を描いた二つの錦絵……………706

第五節 村を守る―治安悪化と幕府・地域の対応……………708

1 関東取締出役と改革組合村……………708

関東取締出役の設置 改革組合村の設立 文政改革の趣旨 改革組合村の概要 田無宿寄場組合
のしくみ 小川村組合結成への志向

2 異国船情報と地域の対応……………717

地域へもたらされる異国船情報 ペリー来航と小平市域の村々 海防体制の再編と村役人の献金
「国」の登場

3 アウトローの時代……………723

慶応水滸伝の世界 幸八と多摩のアウトロー勢力圏 幸八の最期 幸蔵の登場 幸蔵の帰村 幸
蔵の最期 アウトローと地域社会

4 武装する村人……………734

江川農兵の発案 動員の論理 小平市域の農兵の概要 農兵の訓練と自意識 幕領兵賦の展開

コラム 近藤勇の母と兄……………745

第六節 幕末の三つのたたかい―助郷反対運動・武州世直し一揆・戊辰戦争―……………747

1 助郷反対運動……………747

慶応二年九月の関前村ほか二〇か村からの肥料代金下付願い 助郷役など交通・運送の役負担

武蔵野新田が助郷免除される理由 拡大される助郷役

2 武州世直し一揆と農兵のたたかい……………761

農兵の動員 武州世直し一揆の勃発 「見掛次第可切殺」 幸蔵の活躍 農兵と地域 観音崎台場

の警衛 その後の農兵

3 戊辰戦争と小平市域の村々―官軍・振武軍・仁義隊―……………771

政局情報と小平市域の村々 官軍の通行と負担 多摩の戊辰戦争 仁義隊の感状 上野戦争と振

武軍・仁義隊 時代の変化

コラム 村の鉄砲の行方……………778

第七節 品川県庁に押しかける―品川県の成立と御門訴事件―……………780

1 御門訴事件の背景……………780

御門訴起ころ 江戸近郊の直轄県と地域社会

2 品川県社会政策の推進と御門訴事件の経緯

発端―新しい社会制度の強制―集団直訴へ 糞笠姿で出発する 厳しい尋問と処罰

785

3 御門訴事件の歴史的意義

品川県知事古賀一平の新しい施策の評価 関前村・関前新田名主忠左衛門 忠左衛門とは異なる
村落指導者層 「御門訴」で獲得したもの 近世最後の民衆運動としての御門訴事件

800

おわりに

.....

809

参考文献

.....

823

資料提供者・提供機関及び協力者・協力機関

執筆担当者

市史編さん関係者

